

代表理事村上玲が

大阪府「NPO等活動支援によるコロナ禍における社会課題解決事業」

令和4年度採択事業、7団体を訪問しました。

大阪府「NPO等活動支援によるコロナ禍における社会課題解決事業」に採択された7団体を村上玲が訪問させていただきました。

各団体の事業内容については、クラウドファンディング特設サイト (<https://readyfor.jp/pp/osaka2022>) をご覧ください。

■ 一般社団法人働き方フランチイズ（京都府京都市）

【採択事業】大阪府下の生活困窮者へ健康的な食事を！孤立児童へ食の楽しみを！「フードロス解決循環型フードレール事業」 (<https://readyfor.jp/projects/hatarakikatafc>)



多様な方の雇用機会を生み出すために、これまでの経験を活かした働き方の提案やマネジメントの相談、講演会などを実施する一般社団法人働き方フランチイズ、今回のプロジェクトでは、キッチンカーで「食」と「職」の課題を解決したい、という思いから集荷と配送を同時に行う循環型の仕組みで食品ロスの解決を図りながら、移動式の車で地域の人々を回り、働く場を提供します。

代表の小笠原さんは、音大出身で関連会社が運営するカフェレストラン「メゾン・ド・イリゼ（堺市、<https://iriser-jp.com/>）」の店内にピアノが置いてあり、演奏も行っているそうです。ヴィーガンリーフパイ (<https://gioniriser.thebase.in/>) を試食させていただきました。

■ NPO法人キリンこども応援団（大阪府泉佐野市）

【採択事業】不登校・ひきこもりの子ども達がオンラインのバーチャル空間で繋がる・学べる居場所創り (<https://readyfor.jp/projects/kirin>)



こども食堂やフードパントリー、南大阪初のフリースクールを開校しており、代表の水取さんがPTA時代にお世話になった学校の先生のお名前が由来となるNPO法人キリンこども応援団、今回のプロジェクトでは、コロナでフリースクール（泉佐野）に来られない子ども達のためにオンラインの居場所を作り、社会復帰や自主学习、それらを掛け合わせた時の面白さに繋がっていくように活動される予定です。代表の水取さんは、オンラインのフリースクール（小学生・中学生）に来ることがすべての学校で出席扱いとなることを目指したいと抱負を語っていただきました。

■ 特例認定NPO法人ASOVIVA（大阪府南河内郡）

【採択事業】 未来へ繋ぐ不登校支援。地域を生きた学びのフィールドへ。子どもも大人も自由に学ぶ【くつろぎ自由研究室】を開設したい。<https://readyfor.jp/projects/asoviva>



6~17歳の約30名が堺市や大阪市、奈良県などから通っているフリースクールを大阪府南河内郡河南町運営している特例認定NPO法人ASOVIVA、今回のプロジェクトでは、フリースクールの近くにある元薬屋の店舗を改装して、子ども達の調理場・カフェや地域住民のイベント・コミュニティスペースを作る予定です。

ASOVIVAでは「自ら学び考える」デモクラティックスクールの考え方を取り入れ、スタッフと子供の皆さんは対等に自分達でルールやお金の使い道を決めているそうです。<https://www.youtube.com/watch?v=wVO1VhSsVig>

■ NPO法人日本もったいない食品センター（大阪府摂津市）

【採択事業】 大きな社会課題である食品ロスと貧困を同時に解決！美味しく食べられるのに廃棄となる可能性の高い食品を様々な理由で困窮している人達へ配布

<https://readyfor.jp/projects/mottainai-shokuhin-center>



事業者から食品衛生上問題のない廃棄予定品を引き受けて、安全かつおいしく食べられる食品を「eco eat(エコイート)」という店舗での販売を関連会社で運営または運営サポートし、慈善団体や生活困窮者の方々へ提供し、食品ロス低減を行っているNPO法人日本もったいない食品センター。コロナ禍の緊急食料品支援として、要件を満たした方（個人）にチアシード1kgを直接配送する取り組みをしています。（<https://www.mottainai-shokuhin-center.org chia-seeds/>）

今回のプロジェクトでは、大阪府下の1200世帯を貧困から救う、局所的に貧困ゼロを目指します。賞味期限と消費期限の違いを正確に理解している人は少ないので、いつまで食料品が大丈夫か、経過ルール（2〜3ヶ月目安（容器や保管方法によって異なる）、経験とメーカーヒアリング）を決め、定期的に食感・匂いなどを確認して、まだ安全に食べられるのに捨ててしまう、食品ロスを減らしているそうです。

■ 一般社団法人こどもの居場所サポートおおさか（大阪府大阪市）

【採択事業】生活に困窮する子育て世帯・若者を支援する子ども食堂等に食料品を届ける仕組みづくり
（<https://readyfor.jp/projects/kodomoibasyo-supportosaka>）



子ども食堂への寄贈物資の受け取り拠点、中継拠点として窓口となり、農家や企業からの資を効率的に行き渡らせている一般社団法人こどもの居場所サポートおおさか。今回のプロジェクトでは配送者を確保する制度を構築し、現在大阪府下にある400以上の子ども食堂の内、まずは大阪市内の250団体を繋ぎ、届ける仕組みづくりを目指します。団体がある西成区では特に子供の貧困が深刻で、コロナ禍の休校により、給食でしか栄養を取れない子供の支援が必要になったため、給食の食材を受け取り子ども食堂の回数を増やすなどの活動をされたそうです。

■ NPO法人Queer and Women's Resource Center（大阪府大阪市）

【採択事業】LGBTQが気軽に集え、相談できて、生きていける地域にするための居場所事業
（https://readyfor.jp/projects/qwrc_lgbtq_ibasho）



LGBTQと女性のためのセンターとして、2003年から大阪を中心に活動し、フェミニズムの視点を重視しながら、多様な性の在り方が当たり前で尊重される社会の実現を目指して活動している、NPO法人Queer and Women's Resource Center (QWRC[くおーく]) 遠方や一歩踏みだしづらい方のために、オンラインでも繋がれるハイブリッドの居場所の実施やLINEでの相談も行っています。(<https://qwrc.jimdo.free.com/>)

今回のプロジェクトでは、継続的に支援が必要な方がLGBTQフレンドリーな環境で支援を受けられるようにニーズに応じた支援に繋げていく予定です。理事の桂木さんによると、トランスジェンダーへのネット上でのヘイト活動が活発になっていることに不安を抱いており、同性婚についての訴訟の大阪判決が6月に出るので注目しているそうです。

■ NPO法人つなげる（兵庫県尼崎市）

【探択事業】 コロナ禍の多胎妊産婦支援 -大阪650組の双子や多胎児ママパパをつなげるプロジェクト
(<https://readyfor.jp/projects/tatai-tsunageru>)



『育児を、みんなで育てよう』を合言葉に、双子や三つ子などの「多胎児」の妊婦さんや子育て中のママパパや養育される方々の“孤育て”を防ぎ、「つながりづくり」をサポートしている、NPO法人つなげる (<https://tsunagerunpo.com/>)。多胎は身近に相談できるモデルケースがなく、孤立して思い悩み、親にも理解してもらえないという問題があり、さらには多胎家庭には、産前にはうつ、産後にも虐待などのリスクがあり、離れた場所においても繋がれるオンラインの場が必要と考え、今回のプロジェクトでは、大阪府内の650組の多胎児家庭をつなげ、オンラインで交流広場の開設とオンライン多胎プレパパママ教室を行う予定です。